

さっている。

水量比1:1の支流を過ぎ、次の支流との出合から左に少し離れた所で、天狗滝沢は終わりとする。 (記・

[タイム] 林道終点(6:45)→雄滝(8:00)→天狗滝沢  
出合(9:00)→終了(10:00)

### 赤滝沢

1983年7月23日

L

第

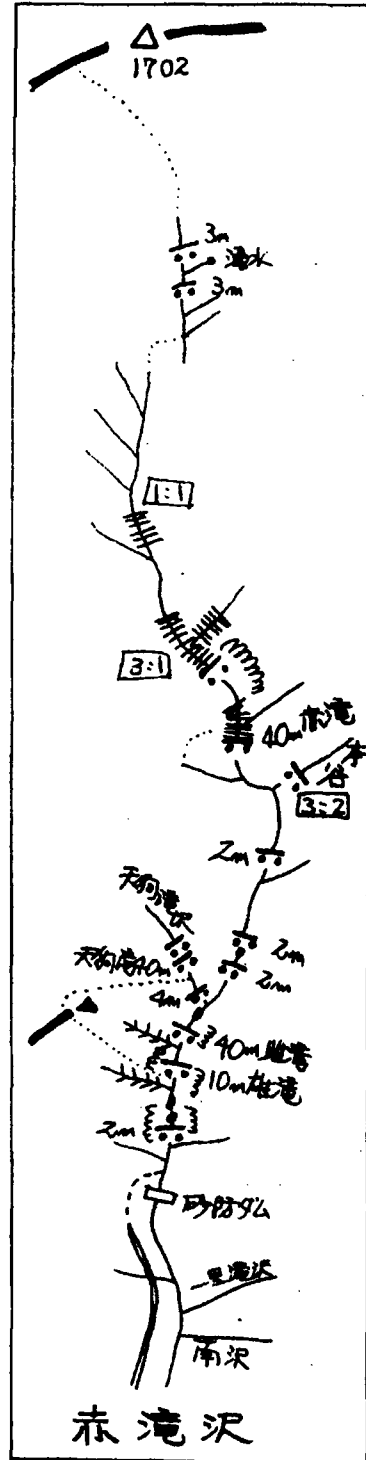
甲子温泉脇から古い林道を最後まで歩いてから阿武隈川本谷に降りる。そこは砂防ダムの上であった。

しばらく河原を進む。左に支沢を分けると沢は右にカーブし、釜が出てくる。すぐ雄滝である。直登できないので、右岸の播きに入る。雌滝に降りないで、そのまま高播きをしてしまった。約1時間を費やす。ここはこんなに大きく播かないで、雄滝と雌滝の間のルンゼの下部を運って小さく播く方が時間を短縮できそうだ。私達は、尾根を乗り越え、天狗滝沢に下降する。

本沢に戻り小さな滝を越えると、本谷と赤滝沢の分岐となる。赤滝沢の方が3:2で水量が多い。

すぐに右カーブとなり、40m程ある特異な形をした赤滝にぶつかる。右岸の小沢を利用して高播く。次に傾斜のきついナメが出てくる。ナメの途中、左岸から15m程のナメ滝が入る。それを過ぎると沢は平凡となる。

10:45二俣となり、右俣に入る。水量は少なくなっている。地図を見ながら右へ右へと進む。11:00沢は濡れる。やぶこぎに入るが、右手から水の音が聞こえてくる。行ってみると、沢が入っている。ここを登る方が楽なので、その小沢を登る。3mの小滝が2つ出てくる。左岸から湧水も入っている。11:



45沢は溜れたので、ふたたびやぶごぎに入る。約2時間を要して尾根に出た。

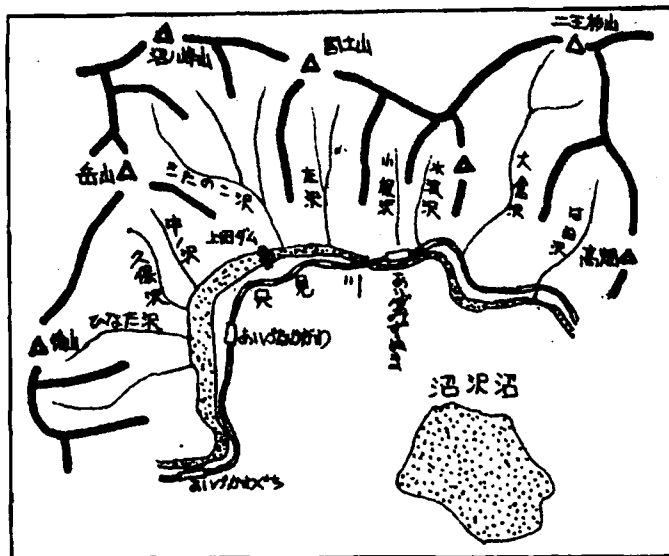
[タイム] 甲子温泉(6:45)→林道終点(7:10)→赤滝沢出合(9:30)→沢終了(11:45)  
→1702mピーク (13:30)

## 只見川中流域の沢

1983年8月27-28日

L

今回初めての試みとして  
労山福島県連内の沢登り愛好者が協力して集中遠行を行なった。これは労山福島県連内の沢登り愛好者の交流と情報交換を目的とした第1回沢登り集会の席上においてである。2日間で只見川中流域の沢14本を遠行(下降)したが、ここでは我々の会の会員が関係した9本の沢の記録を紹介する。



### はね沢

1983年8月28日

L3

車道脇の埋め立て地より沢に入る。鉄橋の下を通るとすぐ砂防ダムがあって、右岸を携えて越える。すぐに次の砂防ダム。ここから次の大きな砂防ダムまで兩岸が